

IV 使用した調査票

この調査は世田谷区が実施しています

男女共同参画に関する区民意識・実態調査

ご記入にあたってのお願い

- ・必ずあて名のご本人がご記入ください。
- ・質問ごとにあてはまる回答の番号を選び、その番号を○で囲んでください。
- ・回答数は（ ）内の指示に沿ってください。
- ・「その他」にあてはまる場合は、お手数ですが（ ）内になるべく具体的にその内容をご記入ください。
- ・質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、矢印や「ことわり書き」をよくお読みください。

平成26年10月

世田谷区生活文化部人権・男女共同参画担当課

お問い合わせ先

- 調査の内容などについては下記へお問い合わせください。

せたがやコール

電話番号 03（5432）3333 午前8時～午後9時（年中無休）

ご記入が終わりましたら・・・

ご記入いただいた調査用紙は、同封の返信用封筒（切手不要）にて10月24日（金）までにご投函くださいますようお願いいたします。

【はじめに、あなた自身のことについておたずねします。】

F1 あなたの性別は？

- | | | |
|--------|--------|--------|
| 1. 男 性 | 2. 女 性 | 3. その他 |
|--------|--------|--------|

F2 あなたのお歳はおいくつですか。

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|------------|
| 1. 20～24歳 | 4. 35～39歳 | 7. 50～54歳 | 10. 65～69歳 |
| 2. 25～29歳 | 5. 40～44歳 | 8. 55～59歳 | |
| 3. 30～34歳 | 6. 45～49歳 | 9. 60～64歳 | |

F3 あなたは結婚していますか。

- | |
|-------------------|
| 1. している（事実婚を含む） |
| 2. していない（離別・死別など） |
| 3. していない（未 婚） |

（F3で「1」とお答えの方に）

→ F3-1 あなたの世帯は、共働きですか。

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 共働き | 3. 妻だけ働いている |
| 2. 夫だけ働いている | 4. 夫婦とも無職 |

F4 お子さんはいらっしゃいますか。

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

（F4で「1」とお答えの方に）

→ F4-1 一番下のお子さんは、おいくつですか。

- | | |
|--------------|--------------------------------|
| 1. 1歳未満 | 6. 高校生 |
| 2. 1～2歳 | 7. 短大・各種学校・大学・大学院生 |
| 3. 3歳～小学校入学前 | 8. 社会人 |
| 4. 小学生 | 9. その他（ ） |
| 5. 中学生 | |

F5 あなたの世帯は、このように分類した場合、どれにあたりますか。ご自分の立場（自分が親、自分が子ども）にかかわらず、世帯構成をお答えください。

- | | |
|------------------|--------------------------------|
| 1. ひとり暮らし | 4. 親と子ども夫婦（二世帯家族） |
| 2. 夫婦のみ（一世帯家族） | 5. 親と子ども夫婦と孫（三世帯家族） |
| 3. 親と未婚の子ども（核家族） | 6. その他（ ） |

【家庭生活について】

問1 あなたは（ア）～（ク）にあげることをどの程度おこなっていますか。

（〇はそれぞれ1つずつ）

	いつもしている	わりとよくやる	ときどきやる	ほとんどしない	まったくしない
（ア）食事のしたく	1	2	3	4	5
（イ）食料品・日用品の買い物	1	2	3	4	5
（ウ）洗濯	1	2	3	4	5
（エ）部屋の掃除	1	2	3	4	5
（オ）風呂やトイレの掃除	1	2	3	4	5
（カ）庭や玄関回りの掃除	1	2	3	4	5
（キ）ゴミ出し	1	2	3	4	5
（ク）町内会や自治会への出席	1	2	3	4	5

問2 は、既婚（事実婚を含む）の方のみお答えください。

問2 あなたは、収入の得られる労働や、家庭内における家事・育児・介護などに1日平均どのくらい時間をあてていますか。それぞれについて、平日・休日に分けて該当する時間数の番号を口の中に記入してください。

【収入の得られる労働】

【家庭内の家事・育児・介護など】

平日の場合 ----->

休日の場合 ----->

1. ほとんどしない

2. 15分くらい

3. 30分くらい

4. 1時間くらい

5. 2～3時間くらい

6. 4～5時間くらい

7. 6～7時間くらい

8. 8時間以上

再びすべての方にお聞きします。

問3 最近では、家族のあり方が大きく変化しており、結婚や出産、男女の役割などに対する考え方も多様化してきています。次にあげる考えについて、あなたはどのように思いますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

	そう 思う	そう 思う どちらか といえ ば	そう 思わ ない どちら かとい え ば	そう 思わ ない
例：家庭生活は夫婦中心がいい ----->	①	2	3	4
(ア) 結婚する、しないは個人の自由である	1	2	3	4
(イ) 未婚の女性が子どもを産み育てるのもひとつの生き方だ	1	2	3	4
(ウ) 「結婚しても、子どもは持たない」というのも ひとつの生き方だ	1	2	3	4
(エ) 話し合いを経た上で、最終的に 子どもの数や出産間隔を決めるのは女性である	1	2	3	4
(オ) 女の子は女の子らしく、 男の子は男の子らしく育てるのがよい	1	2	3	4
(カ) 女の子も、経済的自立ができるように育てるのがよい	1	2	3	4
(キ) 男の子も、家事ができるように育てるのがよい	1	2	3	4
(ク) 男の子も女の子も同じ程度の学歴を持つ方がよい	1	2	3	4
(ケ) 父親はもっと子育てに関わる方がよい	1	2	3	4
(コ) 子育てには地域社会の支援も必要である	1	2	3	4
(サ) 子どもや経済的な不安がなければ、 結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない	1	2	3	4
(シ) 子どもや経済的な問題にかかわらず、 結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない	1	2	3	4
(ス) 家族のために自分が犠牲になるのは耐えられない	1	2	3	4
(セ) 自分の仕事のために、 女性が単身赴任するというのもひとつの生き方だ	1	2	3	4
(ソ) 家事は女性の仕事だから、共働きでも女性がする方がよい	1	2	3	4
(タ) 家庭や職場において、男性は女性以上に責任を負っている	1	2	3	4
(チ) 「男は仕事、女は家庭」という考え方には共感する	1	2	3	4

問4 一人の女性が生涯に産む子どもの平均数（合計特殊出生率）は、1.43人（平成25年厚生労働省人口動態統計）と低水準に留まっています。少子化の原因は何だと思いますか。（〇は3つまで）

1. 将来の社会状況を考えると、明るい未来とはいえないから
2. 出産・子育てが女性の自立の障害になっているから
3. 子育てよりも自分たちの生活を楽しみたいと考える人が増えたから
4. 結婚しても子どもは特に持たないという考えの人が増えたから
5. 女性の結婚年齢が高くなったから
6. 経済的負担が大きいから
7. 子育てのための肉体的負担が大きいから
8. 子どもをどのように育てるべきかなど、子育てのための精神的な負担が大きいから
9. 少ない人数で十分に手をかけて育てたいという人が増えたから
10. 子どもを育てるということに魅力を感じていない人が増えたから
11. 住宅事情がよくないから
12. 保育施設、育児休業の制度などが十分整っていないから
13. 育児に対する男性（夫）の理解や協力が足りないから
14. その他（ ）
15. わからない

問5 身近な地域における大人と子どもの交流の機会・場として、どのようなものが望ましいと思いますか。（〇は3つまで）

1. 大人と子どもが一緒に遊んだり、スポーツをしたりできる機会
2. 大人と子どもが一緒になって自主的な活動ができる機会
3. 大人が子どもの宿題をみたり、勉強を教えたりする機会
4. 様々な活動を通じて子どものしつけをしてくれる場
5. 子どもが職場を見学したり、模擬体験できる機会
6. 大人と子どもが、日常的に気の向いた時にお互いが立ち寄れる場所
7. 大人と子どもが、思いきり体を動かすことができる場
8. 子どもや親の話し相手になったり、気軽な相談のできる場
9. その他（ ）
10. 特にない
11. わからない

【労働・職場】

問6 あなたの職業は次のどれですか。(○は1つだけ)

- | | |
|---------------------|---------|
| 1. 自営業・経営者 | 9. 家事専業 |
| 2. 自営業・家族従業者 | 10. 無職 |
| 3. 自由業・個人事業 | 11. 学生 |
| 4. 家庭内労働・内職 | |
| 5. 常勤の勤め人・部課長以上 | |
| 6. 常勤の勤め人・一般 | |
| 7. パート・アルバイト・臨時の勤め人 | |
| 8. 派遣社員（登録派遣） | |

(問6で「1」～「8」とお答えの方に)

問6-1 あなたが、働いている理由はどのようなことでしょうか。(○は3つまで)

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1. 生計を維持するため | 7. 視野を広めたり、友人を得るため |
| 2. 生活費補助のため | 8. 社会的な信用を得るため |
| 3. 将来に備えて貯蓄するため | 9. 働くのがあたりまえだと思うから |
| 4. 自分で自由になる収入がほしいため | 10. 家業だから |
| 5. 自分の能力、技能、資格を生かすため | 11. 時間的に余裕があるから |
| 6. 働くことが好きだから | 12. その他 () |

(問6で「1」～「8」とお答えの方に)

問6-2 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、女性に対して次のようなことがありますか。(○はあてはまるものすべて)

- | |
|-------------------------------|
| 1. 賃金に男女差がある |
| 2. 昇進、昇格に男女差がある |
| 3. 能力を正當に評価しない |
| 4. 配置場所が限られている |
| 5. 補助的な仕事しかやらせてもらえない |
| 6. 女性を幹部職員に登用しない |
| 7. 結婚や出産で退職しなければならないような雰囲気がある |
| 8. 中高年以上の女性に退職を勧奨するような雰囲気がある |
| 9. 教育・研修を受ける機会が少ない |
| 10. その他 () |
| 11. 特にない |

問 7～9 は、現在働いていない方のみお答えください。

問 7 あなたは、今までに仕事についていたことがありますか。（○は1つだけ）

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 仕事についていたことがある | 2. 仕事についていたことはない |
|------------------|------------------|

問 8 あなたが、現在働いていない理由は、次のどれにあたりますか。（○は3つまで）

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1. 働かなくても経済的に困らない | 1 0. 家族の転勤や転居がある |
| 2. 家事・育児に専念したい | 1 1. 求職に年齢制限がある |
| 3. 家事・育児と両立できない | 1 2. 高齢だから |
| 4. 高齢者や病人の介護・看護と両立できない | 1 3. 求職活動中だから |
| 5. 健康に自信が持てない | 1 4. 扶養家族の方が有利だから |
| 6. 職業能力に自信が持てない | 1 5. その他 |
| 7. 希望や条件にあう仕事が見つからない | () |
| 8. 趣味や社会活動など他にやりたいことがある | 1 6. 特に理由はない |
| 9. 家族の反対がある | |

問 9 あなたは、今後仕事や社会活動をしたいと思いますか。（○は1つだけ）

- | |
|---|
| 1. 常勤で働きたい |
| 2. パートで働きたい |
| 3. 自分で事業をはじめたい（起業） |
| 4. 自宅や身近な場所などでインターネットを通じて仕事をする“SOHO”や“テレワーク”で働きたい |
| 5. 非営利活動団体（NPO、NGO等）で活動したい |
| 6. 家の仕事（家業）を手伝いたい |
| 7. したいができないと思う |
| 8. 働きたいと思わない |

再びすべての方にお聞きします。

問 10 女性の働き方について、あなたが望ましいと思うのは次のどれですか。（○は1つだけ）

- | |
|------------------------------|
| 1. 仕事はもたない |
| 2. 結婚するまでは仕事をもつが、結婚後はもたない |
| 3. 子どもができるまでは仕事もち、その後はもたない |
| 4. 子育ての時期だけ一時やめて、その後はまた仕事をもつ |
| 5. 結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事をもつ |
| 6. その他 () |

問11 女性が長く働きつづけることを困難にしたり、障害になっている理由はどんなことだと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

- | | |
|--|---|
| 1. 育 児
2. 子どもを預けるところ（保育園）がない
3. 高齢者や病人の介護・看護
4. 子どもの教育
5. 家 事
6. 夫の転勤
7. 家族の無理解
8. 職場での結婚・出産退職の慣行
9. 育児休業や再就職など、長く働き続けるための職場の条件・制度が不十分
10. 昇進・教育訓練などでの男女の不公平な取り扱い
11. 女性はすぐやめる、労働能力が劣るという考え方
12. その他（
13. 障害、困難になるものはない
14. わからない | ） |
|--|---|

【仕事と子育て】

問12 仮に、あなたやあなたの配偶者がこれから出産する場合、あなたは育児休業制度を利用しますか。(〇は1つだけ)

- | | | |
|---------|----------|----------|
| 1. 利用する | 2. 利用しない | 3. わからない |
|---------|----------|----------|



(問12で「2. 利用しない」とお答えの方に)

問12-1 育児休業制度を利用しない理由は次のどれですか。(〇は2つまで)

- | | |
|---|---|
| 1. 職場に迷惑がかかる
2. 職場の環境が育児休業を取得できる雰囲気ではない
3. 復帰後、職場に対応できるか不安がある
4. 元の仕事（職場）に復帰できるとは限らない
5. 昇進・昇格への影響が心配
6. 収入が減少する
7. 必要性を感じない
8. その他（
9. 特に理由はない | ） |
|---|---|

問13 育児休業制度をさらに利用しやすくしていくためには、どんなことが必要だと思いますか。
(○は2つまで)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. 事業主や上司の理解2. 職場内の理解を深めていくこと3. 休業中の経済的支援4. 休業期間の延長5. 短時間勤務制度等休業後、職場復帰しやすい体制の整備6. 休業中の情報提供、職場復帰研修の実施7. 代替職員の確保のための援助制度の充実8. 休業後、スムーズに保育所等に入所できる体制の整備9. 育児休業制度についての行政機関等の普及啓発10. その他（具体的に： _____）11. 特にない12. わからない |
|--|

問14 子育てと仕事の両立を図るために、職場においてどのような制度や支援策の充実が必要だと思いますか。(○は3つまで)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. 妊娠中や育児期間中の勤務軽減（フレックスタイム制度や短時間勤務制度など）2. 育児休業制度や再雇用制度の普及促進及び円滑に利用できる環境づくり3. 子どもが病気やけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度4. 勤務先に保育施設を設置する5. 男性も育児休業制度が利用できるなど、子育てに男性も参加できる環境づくり6. 子育てと仕事の両立に向け、職場内の理解を深めていくこと7. 女性の就労継続に対する企業の理解や支援8. その他（ _____）9. 特にない10. わからない |
|--|

問15 子育てと仕事の両立を図るために、区ではどのような施策が必要だと思いますか。
(○は3つまで)

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 保育園の多様な運営（長時間保育、病後児保育等）2. 地域の中で子育てをする仕組み3. 企業などに対する啓発4. 相談場所の開設5. 情報交換できる場所の提供6. その他（ _____）7. わからない |
|---|

【介護について】

問16 あなたご自身が高齢になり介護が必要になったときは、誰に介護をしてほしいですか。

(○は1つだけ)

- | | |
|-----------|-------------------|
| 1. 配偶者 | 6. 友人・隣人 |
| 2. 娘 | 7. 公的・民間サービスを利用する |
| 3. 息子 | 8. その他 () |
| 4. 息子の妻 | 9. わからない |
| 5. その他の家族 | |

問17 これからは公的・民間サービスの整備とともに、男性も共に介護を担うことが求められます。男性の介護への参加を進めるためには、どのようなことが必要だと思われますか。

(○は2つまで)

- | |
|---|
| 1. 男性が取りやすいような介護休暇制度を整備する |
| 2. 男性が気軽に参加できるような介護講座を開催する |
| 3. 男性の理解と協力を得るための啓発活動を行う |
| 4. 労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイムの導入などを企業に働きかける |
| 5. 女性が男性に介護への参加を強く要望する |
| 6. 介護は今まで通り、女性が中心となって行うべきで、男性の参加は必要ない |
| 7. その他 () |
| 8. わからない |

問18 介護の担い手はどうあるべきだと思いますか。(○は1つだけ)

- | |
|--|
| 1. 介護は体力が必要なので男性が積極的に取り組むべきである |
| 2. 男性も女性と同じように取り組むべきである |
| 3. 女性に過剰な負担がかからないように男性も出来るだけ介護にかかわるほうがよい |
| 4. 労働時間の現状などからみて、女性に負担が集中するのはやむを得ない |
| 5. 介護は女性の役割だと思う |
| 6. その他 () |
| 7. わからない |

【女性の人権】

問19 あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」（＝DV防止法）をご存知ですか。（○は1つだけ）

- 1. 法律名も内容も知っている
- 2. 聞いたことはあるが、内容は知らない

問20 あなたは、「ドメスティック・バイオレンス＝夫婦（事実婚・離婚後も含む）や恋人という親しい関係で生じる暴力、人権侵害」についてどのようにお考えですか。（○は1つだけ）

- 1. 100%加害者に責任があり、許せないものである
- 2. 加害者に責任があるとしても、被害者側にも原因の一端があると思う
- 3. 双方の関係の問題であり、周りがとやかく言うべきではない
- 4. その他（ ）
- 5. わからない

問21 あなたがこの中で、ドメスティック・バイオレンスだと思うものはどれですか。（○はあてはまるものすべて）

- 1. 命の危険を感じるような暴力行為
- 2. 髪を引っ張る、物を投げつける等、身体を傷つけられたり、傷つけられる可能性のある行為
- 3. 大声でどなる、無視する
- 4. 人前でバカにする、「誰のお陰で暮らせるんだ」と言う
- 5. 大切にしているものを壊す
- 6. 見たくないのにポルノビデオや雑誌を見せる
- 7. 性行為を強要する
- 8. 避妊に協力しない
- 9. わずかな生活費しか渡さない、仕事に就くことを禁止する
- 10. 友人や実家との付き合いを禁止する
- 11. 外出先をチェックする、封書やメールを無断で見る
- 12. その他（ ）
- 13. 特にない

問22 「ドメスティック・バイオレンス」に対する対策や支援として、特にどのようなものを充実すべきだと思いますか。(〇は3つまで)

1. 家庭内であれ暴力は犯罪であるという意識の啓発
2. いざという時に駆け込める緊急避難場所の整備
3. 緊急時の相談体制の充実
4. 住居や就労あっ旋、経済的援助など、生活支援の充実
5. カウンセリングや日常的な相談など、精神的援助の充実
6. 関係機関やスタッフの充実
7. 関連機関の紹介や暴力への対応方法など、いろいろな情報の提供
8. 離婚調停への支援など、法的なサポートの充実
9. 加害者に対する厳正な対処
10. カウンセリングなど、加害者の更生に関する対策の充実
11. 裁判所、病院、住居探し等への同行支援
12. その他 ()
13. わからない

【社会参加】

問23 あなたは、日常的に交流の持てるグループやサークル、団体などの、自主的な活動に参加していますか。(〇は1つだけ)

1. 参加している
2. 参加していない

(問23で「1. 参加している」とお答えの方に)

問23-1 参加されているのは、どのような活動内容ですか。(〇はあてはまるものすべて)

- | | |
|----------------------|---------------|
| 1. スポーツ活動 | 5. 自治会・町内会活動 |
| 2. 趣味的活動 | 6. PTA・子ども会活動 |
| 3. 学習活動 | 7. 消費者活動 |
| 4. ボランティア・福祉活動・NPO活動 | 8. その他 () |

(問23で「2. 参加していない」とお答えの方に)

問23-2 参加されていないのは、どのような理由からですか。(〇は3つまで)

- | | |
|----------------------|---------------------------|
| 1. 時間に余裕がないから | 7. 経済的に余裕がないから |
| 2. 情報がないから | 8. 近くに活動する場所がないから |
| 3. 子どもが小さいから | 9. 家族が反対するから |
| 4. 個人で活動する方が好きだから | 10. 自分自身どんな活動がしたいかわからないから |
| 5. 仲間がいないから | 11. 関心がないから |
| 6. 高齢者や病人の介護・看護があるから | 12. その他 () |

§ 世田谷区には、男女共同参画社会実現のための拠点施設として、いろいろな講座や催し物、相談、資料収集などの事業を行っている『男女共同参画センター“らぷらす”』という施設が、下北沢の北沢タウンホールの中にあります。§

問24 あなたは、『男女共同参画センター“らぷらす”』をご存知ですか。(○は1つだけ)

1. 利用したことがある
2. 知っているが、利用したことはない
3. 知らない

問25 区では男女共同参画を推進するために、『男女共同参画センター“らぷらす”』などを通じて以下のような事業展開をしています。この中で、特に重点的に行うべきだと思われる事業はどれでしょうか。(○は3つまで)

1. 男性の家事への参画、新しい生き方などを啓発する事業
(例 男性向け家事・育児・介護セミナー等)
2. 女性の就業支援を目的とした事業
(例 女性向け就職セミナー、起業セミナー、キャリアカウンセリング相談等)
3. 最新の社会問題を扱う事業 (例 ストーカー、DV防止啓発物発行等)
4. 情報紙“らぷらす”・FM世田谷などの媒体を利用した、情報提供・意識啓発
5. 行政と区民・区民団体とが協働で実施する事業
6. 地域での社会活動をはじめるきっかけづくりを目的とした事業
7. 家庭、仕事、人間関係などで生じた問題を中心とした、相談事業の実施
8. 男女共同参画に関する図書・資料の提供や、区民・区民団体の活動場所の提供
9. 女性の地位向上等を啓発する事業 (例 男女共同参画週間イベント等)
10. その他 ()

【男女平等】

問26 あなたは、次のような面で男女の地位が平等になっていると思いますか。(ア)～(オ)のそれぞれについて、あなたの感じ方に近いものを選んでください。

(○はそれぞれ1つずつ)

	平等に なっている	ほぼ平等に なっている	平等になって いない	わからない
(ア) 家庭生活では・・・・・・・・	1	2	3	4
(イ) 職場では・・・・・・・・	1	2	3	4
(ウ) 教育の場では・・・・・・・・	1	2	3	4
(エ) 社会参加の場では・・・・・・・・	1	2	3	4
(オ) 全体として、現在の日本では・・	1	2	3	4

問 27 あなたは、女性の意見が行政にどの程度反映されていると思いますか。(○は1つだけ)

1. 十分反映されている
2. ある程度反映されている
3. あまり反映されていない
4. ほとんど反映されていない
5. わからない

(問 27 で「3」か「4」を答えた方に)

→ 問 27-1 反映されていない理由は何だと思われますか。(○は3つまで)

1. 女性議員が少ない
2. 行政機関の管理・監督者に女性が少ない
3. 政策決定にかかわる審議会などへの女性の参加が少ない
4. 女性自身が消極的
5. 男性の意識、理解が足りない
6. 社会のしくみが女性に不利
7. 女性の能力に対する偏見がある
8. その他 ()

問 28 今後さらに、女性と男性が家庭や地域社会へ参画していくことで、どのような変化がもたらされと思いますか。(○はあてはまるものすべて)

1. 仕事を優先する人が減り、日本経済の活力が衰える
2. 企業が男性の家事などへの参画の重要性を認識することにより、
労働時間短縮や休暇制度の整備が進む
3. 仕事と家庭生活のバランスがとれた生き方ができる男性が増える
4. 女性の家事負担が減り、女性の就労や社会参加が容易になる
5. 男性の家庭や社会に対する理解が深まり、視野が広がる
6. 子育てや介護が十分に行われなくなる
7. 家庭における夫婦や親子の絆が深まる
8. 企業内での昇進の遅れなどにより、収入が減る
9. 人々の地域社会に対する親しみや連帯感が深まる
10. 男らしさや女らしさが否定される
11. 伝統的な家庭観が希薄になる
12. 女性の負担が増える
13. その他 ()
14. わからない

問 29 女性の地位を向上させて男女共同参画社会の実現を図るために、今後、行政はどのようなことに力をいれるとよいと思いますか。(〇は3つまで)

1. 学校で平等意識を育てる教育の充実
2. 男女平等への理解を深めるための学習機会の促進
3. 女性問題に関する情報提供、交流会・相談・研究などの充実
4. 女性の職業教育・訓練の機会の充実
5. 就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ
6. 育児・保育施設の充実
7. あらゆる分野における女性の積極的な登用
8. 行政の政策決定などへの女性の参画促進
9. 高齢者や病人の在宅介護サービスや施設の充実
10. 検診体制や相談などの健康管理システムの充実
11. 女性問題に関する国際的な交流・情報収集の促進
12. 男女平等に関する施策の国・都への働きかけ
13. その他 ()
14. 特にない

【仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について】

【資料】

※仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）とは：誰もがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域活動などにおいても子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できることです。

なお、以下の質問における用語の意味は次のとおりとします。

○「仕事」

自営業主（農林漁業を含む）、家族従業者、雇用者として、週1時間以上働いていること。
常勤（フルタイム）、パート、アルバイト、嘱託などは問わない。

○「家庭生活」

家族と過ごすこと、家事（食事の支度・片付け、掃除、洗濯、買い物など）、育児、介護・看護など

○「地域・個人の生活」

地域・社会活動（ボランティア活動、社会活動、交際・つきあいなど）、学習・研究（学業を含む）、趣味・娯楽、スポーツなど

問30 あなたの生活の中で「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度についておたずねします。あなたの希望に近いものはどれですか。現在仕事をしていない方もお答えください。
（○は1つだけ）

1. 「仕事」を優先したい
2. 「家庭生活」を優先したい
3. 「地域・個人の生活」を優先したい
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域生活」をともに優先したい
8. わからない

問31 問30の考え方に対して、あなたの現実（現状）に近いものはどれですか。
（○は1つだけ）

1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭生活」を優先している
3. 「地域・個人の生活」を優先している
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域生活」をともに優先している
8. わからない

問32 今後、仕事と生活の調和を図る上で、何が重要だとお考えですか。

(〇は3つまで)

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 保育サービスや介護サービスなど、育児・介護に関する社会的サポートの充実2. 育児・介護休業取得に対する職場の上司・同僚の理解浸透3. 職場の両立支援制度の充実4. 両立支援制度の利用の促進5. 法律や制度の充実6. 長時間勤務の見直し7. 地域で、日常的に交流の持てるグループやサークル、団体などの自主的な活動に参加できる場の充実8. 家族のサポートや家族の意識改革9. 個人の意識改革や努力10. その他（具体的に： |) |
|---|---|

【防災について】

問33 東日本大震災を経て、防災のまちづくりの一層の推進が課題となっています。

あなたは、防災分野で男女共同参画の視点を活かすためには、どのようなことが重要だと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 災害や防災に関する知識の習得を進める2. 防災分野の委員会や会議に、より多くの女性が参加できるようにする3. 災害対応や復興においてリーダーとなれる女性を育成する4. 災害に関する各種対応マニュアルなどに男女共同参画の視点を入れる5. 消防職員、消防団員、警察官、自衛官などについて、防災現場に女性が十分配置されるよう、採用・登用段階を含めて留意する6. 避難所設備に女性の意見を反映させる7. 備蓄品に女性の視点を活かす8. その他（ |) |
| 9. わからない | |

男性の方にお聞きします。

【男性相談】

男性の雇用問題や親の介護のための早期退職など、男性をとりまく環境が大きく変化し、中高年男性の自殺が増加しています。一方で、男性は、悩みがあっても弱音を吐くことができず、誰かに相談しにくい傾向があるといわれています。以下、男性に対する相談の必要性についておたずねします。

問34 あなたは、この1年間に、悩みや困りごとについて、誰かに相談したいと思ったことがありますか。(〇は1つだけ)

1. あった
2. なかった

問35 あなたは、下記のような悩みについて、無料で利用できる相談機関（例えば区で実施する相談など）があれば利用すると思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 自身のメンタルヘルス（心の問題）やストレスなどの相談
2. 生き方、暮らし方などの相談
3. 結婚や家族（夫婦を含む）など身近な人との間におきた問題についての相談
4. 育児・子育て・子どもの教育などの相談
5. 仕事・雇用・転職・再就職・起業などの相談
6. 健康・病気・障害などの相談
7. 家計・借金・相続などの相談
8. 介護についての相談
9. 利用しない
10. その他（ ）

問36 相談をしたら、相談員は男性・女性のどちらがよいですか。(〇は1つだけ)

1. 男性
2. 女性
3. どちらでもよい

再びすべての方にお聞きします。

【性的マイノリティ（性的少数者）】

性的マイノリティとは、性同一性障害（「体の性」と「こころの性」が一致しない状態）の人や、恋愛感情などの性的な意識が同性や両性に向かう人（同性愛、両性愛）、身体的な性別が不明瞭な人（性分化疾患）などのことをいいます。性的マイノリティの方々の中には、日常生活や現在の社会制度にさまざまな精神的苦痛を感じ、生きづらいと思っている方もいます。

問 37 あなたは、今まで自分の性別に悩んだことはありますか。（○は1つだけ）

- 1. ある
- 2. ない

問 38 あなたは、性的マイノリティという言葉をご存知ですか。（○は1つだけ）

- 1. 知っている
- 2. 初めて知った
- 3. その他（ ）

問 39 あなたは、性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策について、必要だと思いますか。（○は1つだけ）

- 1. 必要だと思う
- 2. 必要ないと思う
- 3. わからない
- 4. その他（ ）

最後に、区の男女共同参画社会の実現に向けて、ご意見やご要望がありましたら、
どんなことでもご自由にご記入ください。

ご協力いただきありがとうございました。

ご記入いただいた調査用紙は、同封の返信用封筒（切手不要）にて
10月24日（金）までにご投函くださいますようお願いいたします。